

ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム 2011

開催期間 2011.11.29(火)~12.2(金) 4日間 対象 ●膜の研究・開発・製造に携わるメーカ、ユーザ、エンジニアリング会社の技術者・研究者、および地方自治体・公共機関関係者、学識経験者等
会場 東京港区・三田NNホール (三田NNビル 地下1階)
主催 日本膜学会 社団法人日本能率協会

企画委員会委員一覧(順不同・敬称略) 協賛(順不同・申請中含む)

■委員長 中尾 真一 工業院大学 工学部 環境エネルギー化学科 教授	村上 孝雄 地方共同法 日本下水道事業団 理事	大熊那夫紀 株式会社プラントテクノロジー 環境システム事業本部 環境エンジニアリング事業部 副事業部長 兼 事業企画本部 副本部長	公益社団法人 化学工業学会 社団法人 高分子学会 一般社団法人 日本化学工業協会 社団法人 日本環境化学会 社団法人 日本産業機械工業会 日本製薬団体連合会 日本製薬工業協会 社団法人 日本病院会 社団法人 日本空気の浄化協会 日本液体浄化技術工業会	先端膜工学研究推進機構 社団法人 日本水質協会 一般社団法人 日本水質協会 一般社団法人 環境資源循環学会 社団法人 日本金属学会 公益社団法人 日本生物工学会 一般社団法人 バイオインダストリー協会 一般社団法人 膜分離技術振興協会 日本海水学会 一般社団法人 エンジニアリング協会	一般財団法人 造水促進センター 社団法人 日本水道協会 社団法人 日本下水道協会 一般社団法人 廃棄物資源循環学会 財団法人 水道技術研究センター 社団法人 電気化学会 日本膜学会 燃料電池開発情報センター 公益社団法人 日本セラミックス協会 特定非営利活動法人 日本水フォーラム
--	----------------------------	--	--	---	---

(敬称略)CC:コーディネータ CC:コーディネータ S:スピーカ

S1 ガス分離膜の現状と新展開 10:00~13:00

C:大屋 博義 旭化成ケミカルズ(株) 化学・プロセス研究所 上級専門職
CC:宮崎 圭太 (株)ノリタケカンパニーリミテド 開発・技術本部 研究開発センター 機能膜グループ チームリーダー

1 プロセスシミュレーション等を用いたゼオライト膜分離システムの開発
2 炭素膜の実用化・水分離回収システム
3 光触媒による水素製造プロセスへの膜分離の応用

S2 水素社会を実現する膜技術 14:00~17:00

C:松方 正彦 早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究所 応用化学専攻 教授
CC:風間 伸吾 (財)地球環境産業技術研究機構 化学研究グループ グループリーダー・主席研究員

1 CO₂選択透過膜の開発と水素製造プロセスへの応用
2 分離膜による高純度水素精製技術の開発
3 Pd系水素分離膜と膜反応器への応用

S3 膜浄水技術の現状と新展開 I~ファウリング抑制技術~ 10:00~13:00

C:田村真紀夫 一般社団法人 膜分離技術振興協会 膜協会ジャーナル 編集長
CC:橋本 輔之 水道機工(株) 研究開発部 課長

1 前処理と温水洗浄による低ファウリング型膜ろ過システム
2 高塩基度PACの特徴と膜ろ過への適用性
3 浄水処理におけるファウリングポテンシャルの提案とその利用(II)

S4 膜浄水技術の現状と新展開 II~R&D、実績、災害時対応~ 14:00~17:00

C:松山 秀人 神戸大学大学院 工学研究科 応用化学専攻 教授・先端膜工学センター センター長
CC:中塚 修志 タイセン・メンブレン・システムズ(株) 技術開発センター 所長

1 粉末活性炭適用のためのUF膜ろ過運転技術
2 鳥取市水道局 江山浄水場 膜ろ過施設-全面供用開始後の運転状況-
3 災害時の膜ろ過技術
4 災害における膜技術適用

S5 MBRの国際標準化と海外動向 10:00~13:00

C:長岡 裕 東京都立大学 工学部 都市工学科 教授
CC:豊原 大樹 東(株) 水処理・環境事業本部 水処理事業部門 主席部長

1 MBR国際標準化と海外動向
2 中国・韓国のMBR状況
3 IWA膜技術会議報告

S6 MBRの新展開 14:00~17:00

C:村上 孝雄 地方共同法 日本下水道事業団 理事
CC:大熊那夫紀 株式会社プラントテクノロジー 環境システム事業本部 環境エンジニアリング事業部 副事業部長 兼 事業企画本部 副本部長

1 堺市三宝下水処理場における大規模MBR施設の導入事例について
2 NEDOにおけるMBR関連開発の概要と成果
3-1 新規内圧式大口径膜の開発・展開
3-2 セラミック平膜を用いた膜分離活性汚泥システム

S7 逆浸透膜のファウリング抑制技術 10:00~13:00

C:佐藤 祐也 オルガノ(株) 開発センター 第一開発部 係長
CC:澤田 繁樹 (株)ウエルシイ 中央研究所 副所長

1-1 低汚染用RO膜エレメント技術
1-2 低ファウリングRO膜エレメントの実働例
1-3 ダウ・フィルムテックのファウリング抑制技術
2-1 膜表面改質によるファウリング防止
2-2 計算化学手法によるファウリング現象のメカニズム解析

S8 進化する逆浸透膜分離技術 14:00~17:00

C:熊野 淳夫 東洋紡績(株) アクア膜事業部 主幹
CC:川勝 孝博 栗田工業(株) 開発本部 基礎技術グループ 第3チーム 研究主幹

1 無薬注RO海水淡水化技術の開発
2 海淡・下水等再利用統合システム事業(ウォータープラザ)のNEDO実証研究
3 排水用中空糸型低圧RO膜モジュールの開発と実証試験
4 RO膜を利用した液晶基板製造排水からのリン酸回収

参加申込規定 JMAマネジメントスクール (FAX:03(3434)5505) http://school.jma.or.jp/membrane/ (HPからも申し込みできます)

参加料 (消費税込・1名あたり)

参加者区分	参加区分	セッション別(半日)	日別(1日)	全セッション(4日間)
日本能率協会 法人会員		19,000円	36,000円	120,000円
日本膜学会 会員				
協賛団体会員		20,000円	38,000円	126,000円
国・地方自治体・国立研究機関・大学		5,000円	9,000円	35,000円
上記外		21,000円	40,000円	135,000円

テキスト合本の申込み(税込)

シンポジウム参加者 27,000円	各セッションのテキストを一冊にまとめたテキスト合本を特別価格で販売いたします。
参加者以外 58,000円	

会場案内 三田NNビル (地下1階 三田NNホール) 東京都港区芝4丁目23番 東京東区芝4丁目3233 TEL:03(6443)3233

交通のご案内 ●都営地下鉄三田線 ●三田直結(A9出口) ●都営地下鉄浅草線 ●三田下車徒歩3分 ●JR山手線、京浜東北線 ●三田下車徒歩5分

注意事項 ●参加料は開催前日までに請求書の銀行振込口座へお振込みください。開催後のお振込みの場合は、請求書の「入金金庫票」にてお振込み日連絡をいただければ結構です(振込手数料は貴社でご負担ください)。

参加申込先 GABC24 〒105-8522 東京都港区芝公園3-1-22 社団法人日本能率協会 JMAマネジメントスクール FAX:03(3434)5505 TEL:03(3434)6271 E-mail: seminar@jma.or.jp

参加申込書